

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果分析と指導の手立て

令和7年10月31日
我孫子市立我孫子第一小学校

今年度の全国学力・学習状況調査は、4月に6年生を対象に国語・算数・理科の3教科が実施されました。毎年、この調査結果をもとに児童の学力・学習状況を把握し、学力向上に努めているところです。

学校の教育活動全般において、引き続き授業改善を重ね、児童の資質・能力の育成に努めて参ります。

国語

<成果と課題>

全国の平均正答率と比べ成果がみられた。基礎・基本の力、活用の力がよく身に付いていると判断できる。

- 設問の形式別で見ると、「選択式」・「短答式」・「記述式」の3方式において大きな成果が見られた。特に、「記述式」の平均正答率が高く、自分の考えや思いを言葉にして伝える力が十分に身に付いていることが分かった。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の平均正答率が高く、思考力・判断力・表現力等がよく身に付いているといえる。
- 無回答率が全国、県と比べ非常に低く、粘り強く学習に取り組む態度が育まれている。

<指導の手立て>

- ・各学年の国語の学習において、話し合い方やプレゼンテーションといった発表の仕方や報告文、新聞作りなど、様々な表現方法の習得を目指した言語活動を着実に行うようにする。
- ・国語の学習で習得した表現方法を活用し、生活科・総合的な学習の時間での主体的な活用を児童に促していく。
- ・「書くこと」において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける力を付けさせる。
- ・漢字や言葉などの言語力を育成するため、漢字指導や語彙指導を今後も継続的に行っていく。
- ・全学年において、ドリルタイムを活用し、前学年までの漢字や言葉の使い方の定着を図る反復学習に取り組む。

算数

<成果と課題>

全国の平均正答率と比べ成果がみられた。基礎・基本の力、活用の力がよく身に付いていると判断できる。

- 設問の形式別で見ると、「選択式」・「短答式」・「記述式」の3方式共に、大きな成果が見られた。特に、記述式では既習内容を活用し、自分の考えを導き出して答えようとする児童が多く、思考力・判断力・表現力等が十分に身に付いていることが分かった。
- 領域別では、「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の4つの領域全てにおいて、平均正答率が全国と比べて非常に高かった。
- 無回答率が全国、県と比べ非常に低く、粘り強く学習に取り組む態度が育まれている。

<指導の手立て>

- ・基礎・基本の力を定着させるための計算問題等の反復練習を継続しつつ、ちばっ子チャレンジ100等の問題にも取り組ませ、活用の力を伸ばしていく。
- ・個別指導や問題解決の際に、算数の少人数指導担当と担任が連携を図り、個に応じた指導をより充実させる。
- ・全学年において、ドリルタイムを活用し、基礎・基本の力の定着を図る。また、日常生活のあらゆる場面で応用できるように意識して指導する。

理科

<成果と課題>

全国の平均正答率と比べ成果がみられた。基礎・基本の力、活用の力がよく身に付いていると判断できる。

- 設問の形式別で見ると、「選択式」・「短答式」・「記述式」の3方式において大きな成果が見られた。特に、「記述式」の平均正答率が高く、自分の考えや思いを言葉にして伝える力が十分に身に付いていることが分かった。
- 「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4つの領域すべてにおいて平均正答率が全国と比べて高かった。
- 無回答率が全国、県と比べ非常に低く、粘り強く学習に取り組む態度が育まれている。

<指導の手立て>

- ・実験や観察が教師の教え込みにならないように、子どもたちの疑問から実験の計画を考え、意欲的に取り組めるようにする。
- ・3年生～6年生までの系統性を意識して指導していく。
- ・実験器具の扱い方や理科の用語は、丁寧に指導し、次の学習内容や次の学年での学習に生かせるようにする。

質問紙

次の内容において全国平均以上または同程度の肯定的な回答が得られた。

- ・生活習慣・学習習慣
- ・自己有用感
- ・規範意識
- ・国語への関心等
- ・算数への関心等
- ・理科への関心等

＜成果＞

下記の質問項目に対して全国や県に比べて肯定的な回答が多かった。“個別最適な学び・協働的な学び”の一層の充実を図った教育活動の成果が表れていると考えられる。

- ・「人の役に立つ人間になりたい。」
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい。」
- ・「友達関係に満足している。」
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたい。」
- ・「人が困っているときは進んで助けている。」

＜課題＞

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することに課題意識をもつ児童が見られた。

一小の子どもたちの力を伸ばすために日常でできること

子どもたちがすくすくと成長していくために、学校と家庭で次のようなことを意識していけたらと考えています。

気持ちのよいあいさつ

「笑顔であいさつをする」ことは、1日の生活を潤してくれるとても大切なことです。

「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「いただきます」など、コミュニケーションの第一歩となります。子どもたちも、大人たちもあいさつを大切にしていきたいです。

主体的な活動

「お手伝いしましょうか？」

このような嬉しい言葉を言ってくれる子どもがたくさんいます。「助けてくれてありがとう」と伝えると、嬉しそうな顔をしてとても満足そうにしています。「誰か

を助けることは気持ちがいい」という思いが、次の主体的な活動につながっていきます。

他にも、「知らなかったことを知る」「難しいことができた」といった課題解決の経験を積み重ねていくと、自ら進んで解決しようとする意欲や力が身に付いていきます。

転ばぬ先の杖は大切ですが、与えるタイミングや与え方を見極めていくことが大切だと考えています。

学習習慣づくり

学習習慣を作ることはとても大切なことです。しかし、なかなか机に向かうことができない子が多くいることも事実です。学校では、学習のプロセスを認めて意欲をアップさせることを目指しています。ご家庭では、漢字・計算ドリルの反復練習や予習・復習など1日5分からスタートしてみてはいかがでしょうか。少しの成果や伸びを見逃さずその都度ほめることで、学習に向かう時間が少しずつ延びていくと思います。

学習と言えば机・ノート・鉛筆を連想しがちですが、普段の生活の中にも学びはたくさんあります。食卓に並ぶ魚の刺身を1つとってみても、

「かつおって漢字でどう書くのかな？」(国語)

「この魚ってどこの海から来たのかな？」(社会)

「10切れで〇〇〇円だけど、1切れいくらかな？」(算数)

「この魚にはどんなヒレがついていたのかな？」(理科)

と様々な疑問が浮かんできます。会話をしながら、「学ぶこと、知ることはとても楽しいことなんだ！」という思いをもたせていきたいです。

明日に向けて

学校で困ることの1つに「忘れ物」があります。家庭学習の締めくくりとして、宿題の確認や、持ち物の準備をすませましょう。そうすることで、次の日、安心して授業に取り組めるようになります。また、忘れ物がなくなると、学校生活への自信がついてきます。

読書習慣の定着

「読書好き」は「学び上手」につながります。学力を高める上で、即効性がないかのように見える「読書」ですが、読書習慣が身に付くと、学力の向上が期待できます。登場人物になりきって想像力をはたらかせたり、新しい知識に出会ったりしながら、読書の楽しさを味わってほしいと思います。ご家庭で音読を聞いたときに、「いいお話だね」などの言葉をかけていただけたらと思います。

思いを伝える機会の充実

家族や子どもたち同士、子どもと先生など、関係が深まってくるほど、短い言葉で思いが通じるようになります。しかし、「先生、宿題・・・」「これ・・・」などと単語だけを発して、思いを丁寧に伝えることができなくなるという弊害もあります。

子どもたちの思いを最後まで伝えさせ、最後まで聞いていくことが大切です。主体的・対話的で、深い学びを実現することを目標としている学習指導要領では、子どもたち同士の対話的な学びがより一層重視されています。日常の中でコミュニケーションをとる機会を増やしていきたいです。

地域への関心を高める

かつては「北の鎌倉」と呼ばれ、歴史的・文化的な遺産が多く遺されている我孫子は、手賀沼と利根川に挟まれた自然豊かな鳥の街です。自分のふるさとを愛し、誇りをもち、大人になっても我孫子を大切にしてくれる人たちになってもらえるよう、本校では引き続き地域学習を行っていきます。ご家庭でも、地域と触れ合う機会を作っていただけたらと思います。

